

伊方原発 運転差し止め

火山の影響で「立地不適」

広島高裁命令 来年9月末まで

四国電力伊方原発3号機（愛媛県伊方町、定期検査中）の運転差し止めを広島、愛媛両県の住民が求めた仮処分申請の即時抗告審で、広島高裁は13日、申し立てを却下した広島地裁の判断を取り消し、来年9月末までの運転差し止めを命じる決定を出しました。野々上友之裁判長は「阿蘇の過去の噴火で火砕流が到達した可能性は十分小さいと評価できず、原発の立地は認められない」と判断した。仮処分決定は直ちに効力が生じるため、四国電は決定が覆らない限り、来年2月の定期検査が終わっても運転を再開できません。四国電は異議を申し立てる方針。

↓関連⑤面・決定要旨④面



「伊方3号機差止命令下る」「被爆地ヒロシマ原発を止める」などの垂れ幕を掲げる支援者ら＝13日、広島市

一、四国電力は2018年9月30日まで、伊方原発3号機を運転してはならない。

一、火山の影響による危険性を除けば、原発の新規制基準は合理的。

一、四国電の調査では、

決定骨子

約9万年前の阿蘇の噴火で火砕流が到達した可能性が十分小さいと評価できず、立地は認められない。

一、火山の影響による危険性について、伊方原発が新規制基準に適合するとして原子力規制委員会の判断は不合理で、生命身体に対する具体的危険の存在が推定される。

東京電力福島第1原発事故の後、高裁段階で運転差し止めを命じた司法判断は初めて。野々上裁判長は、差し止め訴訟が係争中の広島地裁が異なる判断をする可能性もあるとして、運転停止期間を来年9月30日までとしました。

野々上裁判長は、火山の影響を重視し、伊方原発から約130キロ離れた阿蘇方ルテラ（熊本県）で約9万年前に起きた巨大噴火を検討。四国電が伊方原発周辺で実施した地質調査やシミュレーションでは、火砕流が敷地に到達した可能性が小さいとは言えず、「原発の立地は不適」と判断。最大規模の噴火でなくても四国電の火山灰などの想定は「過小」と指摘するなど、伊方原発が新規制基準に適合したとした規制委の判断を「不合理」としました。

一方、基準地震動（想定される地震の揺れ）の策定方法など、火山以外の争点については「新規制基準は合理的」と判断しています。

裁判の流れ変えた

伊方3号差し止め 響く歓声



伊方原発3号機差し止め仮処分申請の即時抗告前で、決定を前に広島高裁に向かう住居グループは13日午後、広島市中区の高裁前

“被爆地ヒロシマで” 報告集会

四国電力伊方原発3号機の運転差し止めを認めた広島高裁の決定を受けて、裁判所前に「伊方3号機差し止め命令下る」「被爆地広島原発を止める」の垂れ幕が掲げられると、支援者から大きな拍手と歓声が上がりました。

報告集会で河合弘之「火山事象に対する問弁護士は「高裁での勝利はこれからの裁判の流れを大きく変える歴史的な成果だ」とのべ

力を込めました。

抗告人の一人、広島市の網崎健太さん(37)は「人生を狂わせた原発事故の被害者から話を聞いて、原発反対に立ち上がりました。原発も原爆もいりません」と語りました。東広島市の奈良直子さん(54)は二人でも多く参加して原発反対の意思を伝えたいと参加しました。原発の恐ろしさを伝えていきたい」と語りました。

史上初

四国電力伊方原発3号機(愛媛県伊方町)の運転差し止めを命じた広島高裁決定を受けて、住民側弁護団は13日、「高裁で原発の運転差し止めを命じるのは史上初」などとする声明を発表しました。

声明は、「被爆地ヒロシマの裁判所で、これ以上放射線によって苦しむ人々を増やさない決定が出された」と評価。しかし、差し止め期限を2018年9月30日と区切っているのは「不合理」と批判し、期限が迫った段階で差し止め仮処分の申請をする予定だとした

橋頭堡築いた伊方原発をとめる会共同代表・須藤昭男さんの話 広島高裁が運転差し止めを決めてくれたことを評価しています。原発を中心とする巨大な勢力を攻めあぐねているときに一つの

火山影響 他原発も

広島高裁が四国電力伊方原発3号機を差し止める決定をだしました。決定は、四国電のコミュニティから伊方原発から130キロに位置する阿蘇カルデラの約9万年前の噴火で「火砕流が伊方原発敷地に到達した可能性が十分小さいと評価することはできない」として、「伊方原発の立地は不適」と結論づけています。原子力規

制委員会が審査で用いる「火山ガイド」は、火砕流が原発に到達する可能性が十分小さいと評価できない場合には立地不適としているからです。また、「社会通念」をもって「極めて低頻度」な危険性を容認した昨年4月の福岡高裁宮崎支部の決定などを引き、火山ガイドが考慮すべきだと定めた自然災害を限定解釈して判断基準の枠組みを変更することには許されないと指摘していることも重要です。今回の高裁の考え方が定着すれば、影響は伊方原発にとどまりません。火砕流の影響については、九州電力川内原発、玄海原発、北海道電力泊原発などで過去に到達したとされており、今後これらの原発の立地評価も問題となる可能性があります。さらに決定は、最大規模の噴火でなくても、影響の想定が過小と批判しており、規制委の今後の対応が注目されます。(原発取材班)

橋頭堡(きょうとうぼ)は、私たちが活動は無駄ではなかったと感激して山手での記者会見で

橋頭堡(きょうとうぼ)は、私たちが活動は無駄ではなかったと感激して山手での記者会見で